2020/08/10

少し構造と使い方が変わりましたが復旧しました。

ファイルをプルしたらターミナルでnpm iして npm startで動きます。htdocsと書かれたフォルダの中身がコンパイル後のもので、これをupしてください

srcフォルダです。npm start状態になっていると書き換えて保存すれば自動で反映されます

あと画像はsrc/assets/images/にまとめたので、あらたに追加される際はそこへ

==================

1. Sourcetreeを起動する。
2. Finderで表示ボタンを押す
3. 端末ボタンを押す
4. 端末でpingy devと打つ。

# 父メモ

# Gitの扱い

## 何か変更した場合

### commit

ローカル上で変更の履歴を残すこと

（ローカルなのでオフラインでもできる）

（commitは小さな変更ごと、こまめに行うのが望ましい）

1. 画面上のコミットを押す

2. 作業ツリーのファイルというところにチェック

3. 下の入力欄にコミットメッセージを追記してコミットを押す。

### push

コミットのログをリモート（github）に送信し、他人に共有すること。

プッシュしなければ他人が扱えるようにはならない。

1. 画面上部のプッシュ↑を押す

2. 特に何もいじらずにOK

---

### pull

他ブランチ（他人）の変更を自分のローカルに取り込むこと。

1. ソースツリーを開く

2. uncommit changesがないか、pushが溜まっていないか確認する。

3. 画面上部のプル↓を押す

4. プルするリモートのブランチ、という箇所をmasterにする。（大事！）

5. OKを押す

w

## サイトの確認

1. ターミナルで`cd 対象ディレクトリ`

2. `pingy dev`

3. 自動でブラウザでローカルホストが開く

## サイトのサーバーにアップロードする場合（まだしないで）

1. ターミナルで`cd 対象ディレクトリ`

2. `pingy export`

3. 対象ディレクトリ以下にdistというフォルダが生成される。そこにhtml一式が入っているので、このファイルの中身をまるごとサーバーに置くこと。